

ゆめ・まち・みらい vol.36

阪急阪神ホールディングスグループ社会貢献活動

「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」グループ従業員向け情報誌 [2018年冬号(年4回発行)]



ぜひご家庭でもお読みください

「美味しいは世界を変える」 を合言葉に

Gochiso株式会社



● 阪急阪神
未来のゆめ・まち基金
助成対象団体レポート

● ソーシャル・ピープル・
インタビュー
レゴ®認定プロビルダー
三井 淳平さん

● グループ従業員の
ボランティア活動
レポート

ソーシャルグッズ
読者プレゼント

詳しくは裏表紙へ

撮影協力:ザフラン・スバイスバル

阪急阪神ホールディングスグループ

こちら事務局

基金ご参加の皆さまへ 応援したい市民団体に一票を!
「ゆめ・まち基金 市民団体助成プログラム」
選考アンケートにぜひご回答ください(1月中旬送付)

皆さまの募金を積み立て、会社からの同額寄付と合わせて阪急阪神沿線の市民団体を助成する「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金 市民団体助成プログラム」。9回目となる今年度の公募には、86団体からの申請をいただきました。ゆめ・まち基金にご参加の方には、1月中旬に選考アンケートをお送りします。アンケートで高評価の市民団体は、本選考で加点しますので、ぜひご回答ください!

なお、本選考における従業員代表は次の方々です。

阪急電鉄 広報部/花森由起子さん
阪神電気鉄道 運輸部/赤田和則さん
阪急阪神ホテルズ 経営統括本部 総務人事部/澤田知さん

「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」は随時、
皆さまのご参加お待ちしております!

※詳しくは、ページ下部のHPの「従業員向けページ」をご覧ください。

助成プログラム審査の流れ

- 11月21日(火)
事務局による書類選考
- 1月中旬
基金参加者アンケート送付
- 2月5日(月)
基金参加者アンケート締切
- 2月14日(水)
会社・従業員代表による本選考
- 3月末
助成実施



今年も「書き損じハガキ寄付プログラム」実施中!
ハガキ回収期間は1月31日(水)まで

誰でも気軽に参加できるボランティア「書き損じハガキ寄付プログラム」。今年も皆さまからお預かりしたハガキを切手に交換し、NPO法人Japan Hair Donation & Charityに寄付します。ご家庭の書き損じハガキを、ぜひお寄せください!

- 主な回収場所
- ① 阪急電鉄本社ビル 2F従業員食堂など
 - ② 阪神電気鉄道本社ビル 3・4・6・7Fエレベーター横通路など
 - ③ 阪急交通社 各拠点(新橋・青葉台・大阪・名古屋・福岡)事務所
 - ④ 阪急阪神エクスプレス 各営業所
 - ⑤ 阪急阪神ホテルズ 11ホテル(第一ホテル東京、大阪新阪急ホテルなど) 他グループ各社

※個人情報には必ず塗りつぶして入れてください。※切手への交換手数料は事務局が負担します。※ポイント申請とあわせて事務局に社内便や郵便などでお送りいただいても結構です。

寄付先 NPO法人Japan Hair Donation & Charity(ジャーダック)
傷病により髪に悩みを抱えている子ども達のために、ヘアドネーション(髪の寄付)や寄付を通じて、医療用ウィッグの製作ならびに無償提供を行っている団体。

ポイント申請 書き損じハガキの寄付活動に対して社会貢献ポイント(5ポイント)を進呈。下記URLの「Topics」より申請書をダウンロードし、2月末日までに、ご申請ください。なお、期間中、何回ご寄付いただいても、申請は1回限り有効です。※上記以外の回収場所など、詳しくはページ下部のHPの「従業員向けページ」内Topics欄をご確認ください。

VOICE!



書き損じハガキは郵便局へ!その通りです。しかし、そのハガキ1枚からボランティアが出来ます。ボランティアって時間、労力が必要ではとお考えの皆さん、設置されているBOXに入れるだけ是非、ご協力を(阪急阪神エクスプレス グローバル統括本部 品質管理部 丸下 俊之さん)

阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト事務局

(阪急阪神ホールディングス 人事総務室 総務部 社会貢献担当)
shakai@hankyu-hanshin.co.jp
TEL: 06-6373-5086 FAX: 06-6373-5174
URL: http://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/
※グループ従業員向けページの「ユーザー名」、「パスワード」は8984です。



ソーシャルグッズ
読者プレゼント

5名様に
プレゼント

被災地/
支援!



豆腐の味噌漬
結(むすび)3個セットミニ



購入金額の10%が
福岡県朝倉市の
復興支援として
寄付されます

美味しい伝統食を食べて
復興支援に参加

2017年7月の九州北部豪雨で大きな被害を受けた福岡県朝倉市に工房を構える、「豆腐工房 ぬくもり畑」の復興支援寄付つき「豆腐の味噌漬」セット。合成添加物を使用せず地元素材だけで1つずつ手づくりされた味噌漬は、まるでチーズのように滑らかでうまみが凝縮されています。「接待の手土産セレクション2017」入選、「OMOTENASHI SELECTION2017」受賞など…今話題の逸品。大注目のグルメを楽しみながら復興支援に参加しませんか?

価格/1,620円(税込)
販売/豆腐工房 ぬくもり畑
URL/http://www.nukumori-batake.com/

ご希望の方は下記事務局までメールでお申込みください。メール件名を「豆腐の味噌漬プレゼント希望」とし、本文に「氏名」「所属会社・部署名」「送付先の住所・電話番号」「ゆめ・まち・みらいの感想」を明記してください。

応募締切:2018年1月31日(水)

編集後記

はじめまして。新メンバーの正岡です。「書き損じハガキ寄付プログラム」は職場でできる身近なボランティアです。あなたの1枚が子ども達の力になります!ご参加、お待ちしております!(正岡愛弓)

息子が夢中に取り組み姿にレゴブロックの魅力を感じていましたが、三井さんの記事を読み、その更なる可能性に気付かされました。小さなブロックでつくられる緻密な作品に込められた想いが素敵ですね。(平野里美)

「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」とは

「未来にわたり住みたいまち」づくりをめざし、「環境づくり」と「人づくり」の分野で、グループ各社の社会貢献推進、市民団体の支援、従業員のボランティア活動の応援の3つに取り組む当社グループの社会貢献活動です。

阪急阪神 ゆめ・まち 検索



好きなレストランで食事をするだけで、
 食事代の一部をNPO団体に寄付できる…
 こんなサービスをご存知だろうか。
 その名もGochiso(ゴチソ)。
 阪急電鉄が出資する「梅田スタートアップ
 フォンド」でも支援しているサービスだ。
 食事という日常の行為を寄付とつなげ、
 楽しみながら誰かの役に立つことができる、
 そんな素敵な取り組みをご紹介します。

レストランもNPO団体もユーザーも。
 全ての人が嬉しいサービス

Gochisoとは、ひとことでは「食べることを通じてみんなが幸せになる」システムである。まず、サービスに登録したレストランは、集客に困る時間帯に、社会貢献に関心の高い客層を呼び込むことができる。そしてNPO団体は活動資金を集めることができる。さらにユーザーは美味しい食事をするだけで簡単に寄付ができる。「It's win win win!」と笑うのは、この画期的サービスを立ち上げたGochiso株式会社のCEO、フィリップ・ニュンさん。アメリカ出身の彼は、京都大学大学院の留学生として来日。そこで出会ったキナ・ジャクソンさんと共に、日本NPO法人を設立したいと計画する。「けれどNPO団体の現状を調査しているうちに、どこもファンドレイジング(資金調達)に苦労していることがわかりました。私達が新しくNPO団体をつくるより、今ある団体をサポートする仕組みを考える方が社会的なインパクトが大きいのではと思うようになったので。同時期に、ある飲食店オーナーからこんな悩みを聞きました。割引クーポンを発行すれば閑散時に集客はできるが、安売りするお店というイメージがつい



レストランからの声

- 忙しい日々の中でもGochisoを通して地域のコミュニティをサポートできるのはとても嬉しい。
- 他のサービスは多くの費用がかかるけれど、登録費や月額費用がかからず、それでお客さまが来てくれることが、ありがたい。
- コンセプトが良い。素敵なプロジェクトの一員として関わることができて嬉しい。



NPO団体からの声

- 今までは直接「寄付してください」という必要があったけれど、Gochisoの場合は「ご飯を食べる時はこちらから」とサポートをお願いしやすくなった。
- 寄付ツールというだけでなく、NPO団体の情報を発信するメディアという役割もある。
- NPO団体に興味があるけれど説明会までは行きにくい…という人にも手軽なステップになる。

Gochiso株式会社

「レストランとNPO団体をつなぐ社会貢献」をテーマに、2016年11月設立。起業にあたり、阪急電鉄が出資している、創業間もない成長志向の企業を支援する「梅田スタートアップファンド」の出資対象となった。現在はGVH #5(注)にオフィスを構える。「GVH#5には資金だけでなくワーキングスペースを提供しており、大変助かっています。関西から全国、世界へと、この取組みを広げていきたい」写真左から中村秀輔CCO(最高コミュニティ責任者) フィリップ・ニュンCEO(最高経営責任者) キナ・ジャクソンCOO(最高執行責任者)



事務所：〒530-0017
 大阪府大阪市北区角田町1-12
 阪急ファイブアネックスビル11F
 GVH#5
 URL : <https://gochiso.jp/>

(注) 起業をめざす人々が集い、新しいビジネスモデルの創出を実現させてゆくための拠点として、阪急電鉄が開設した、会員制のスタートアップ支援オフィス。

Gochisoを通じて寄付をする仕組み

Gochisoのサービスを利用するには2つの方法があります。

レストランで食事をするだけで、食事代の一部をNPO団体に寄付できる

予約したレストランで友人や家族と食事をする

- STEP1 上記のGochisoのHPより、行きたいレストランとコースを選ぶ
- STEP2 食事代を事前支払いする
- STEP3 Gochisoポイントを獲得 ※1ポイント=1円換算
- STEP4 Gochisoポイントを利用して寄付したいNPO団体を選ぶ



多国籍料理をはじめ、Gochisoが自信を持っておすすめするレストランがずらり

例えばこんなレストラン

- ポイント獲得率 10%**
 ザフラン・スパイスバル (大阪市北区茶屋町)
 食べて美味しいだけでなく、様々な健康効果が期待されるスパイスフードのお店。こだわりのカレーから炭火焼料理まで、メニューが充実している。
- ポイント獲得率 15%**
 ヴォラーレ (吹田市江の木町)
 有機野菜、天然の鮮魚、上質和牛などを生産者との直接のやり取りで調達。健康に配慮した料理とともに自然なライフスタイルを提案する自然派イタリアン。



レストランで開催される食事イベントに参加する

- STEP1 上記のGochisoのHPより、参加したいイベントを選ぶ
- STEP2 食事代を事前支払いする
- STEP3 Gochisoポイントを獲得 ※1ポイント=1円換算
- STEP4 Gochisoポイントを利用して寄付したいNPO団体を選ぶ

イベントでは美味しい料理だけでなく、知り合った人々との交流も楽しめる!

例えばこんなイベント

- 寄付+食=キフード!?
 美味しい食事をするだけで寄付ができる

場所/ザフラン・スパイスバル
 日時/1月30日(火) 19:00~21:30
 主催/Gochiso

是非、お越しください!



「美味しいは世界を変える」を合言葉に

「困る…とね」そこで、フィリップさんは考えた。レストランの売上げの何%かをNPO団体に寄付するシステムをつくれれば、NPO団体は資金調達源がひとつ増えて助かり、レストランもブランドイメージを損なわずに社会貢献意識の高い新たな顧客を集めることができるはず。Gochisoのアイデアは、こうして生まれたのである。

食事という日常の行為を通して世界を変えることができるように

Gochiso株式会社が設立されたのは2016年11月。チャリティ文化がまだまだ根付いていない日本では、最初はレストランに声をかけても取り合ってもらえなかったという。「NPO団体の方々が知り合っているレストランを紹介してくれたり、徐々に口コミで広がってきました。登録数が10〜20軒を超えたあたりから急激に伸びましたね」とフィリップさん。1年間のトライアル期間を経て、2017年11月に正式リリースした時点で、レストランが約50軒、NPO団体は約40団体が登録されており、寄付金の総額は35万を超えた。Gochisoのサービスが広く世の中へ浸透するためには、ここからが本当のスタートだ。「食事という日常の行為が誰かのためになれば、いつもの料理がもっと美味しくなり、いつもの集まりがもっと楽しくなると思いませんか? そうして幸福な時間を過ごす中で、チャリティが当たり前のこととして根付いていけば…」とフィリップさん。「私達がめざすのは、全ての人々が社会変革の一部になれる世界。誰もが気軽に自分の関心のある分野を支援できる社会。美味しい食事をしながら、そういえばこれ、寄付になった!みたいなね。だから皆さんもどうぞ、Let's join!」

series
82

春夏秋冬、里山の自然を めいっぱい遊びつくそう!

都心部へのアクセスが便利でありながら、自然豊かな里山・五月山を有する池田市。だが、市内に住んでいるのに五月山へ行ったことがない子どもが多数いるという現状。この課題に着目し、子ども達に池田市ならではの自然環境を体感して、守り継いでほしいと活動をおこしたのが、市内の市民団体の中間支援を行う「池田市公益活動促進協議会」だ。

その活動とは、子ども達が自然を体験できる「里山・あそび隊」。自然観察や保全活動を行う団体と協力した1年間のプログラムである。春はハイキング、夏は池田伝統の祭り「がんがら火」の作業所見学、秋は余野川での魚取り、冬に五月山で設置した巣箱に春になるとシジュウカラがやって来る…。オールシーズンのプログラムを修了する頃、子ども達は、心身ともに見違えるほどたくましくなっているという。

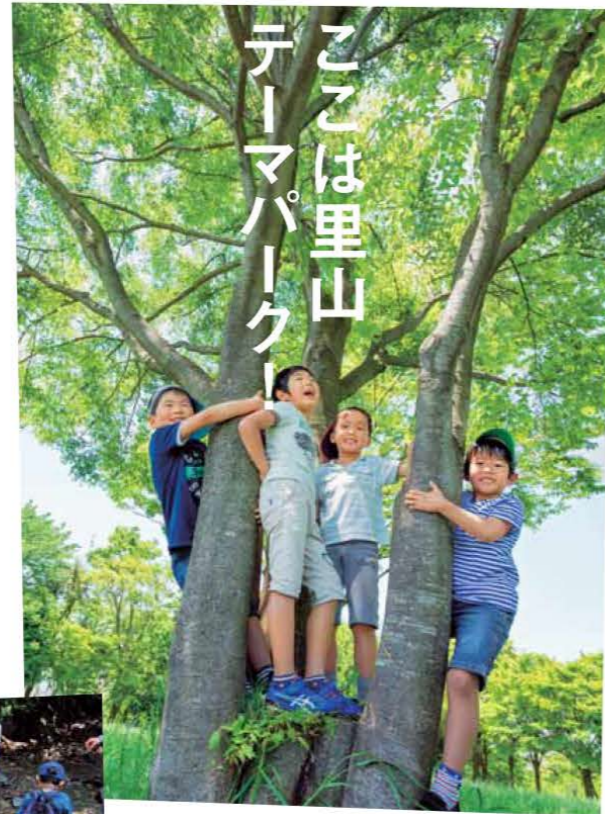
里山で育った子ども達が、これからは里山を育てていけるように。多様な野生生物や植物のすみかである里山での原体験は、生態系の大切さを次世代に受け継ぐきっかけとなるだろう。

池田市公益活動促進協議会

TEL: 072-750-5133
E-mail: info@toael.jp
URL: https://www.toael.jp
事務所 池田市



楽しく自然にふれることで、環境保護への関心が高まる効果も。



series
83

同じ地域の仲間とともに、 助けたり、助けられたり。

地域のみんなは
大家族。



地域ネットワークの希薄化が叫ばれ、子どもから高齢者までの3世代にわたる交流が減少している。それぞれの世代が抱える悩みや困りごとはさまざまにあるが、交流がなければ、そこに助け合いも生まれにくい。「東灘地域助け合いネットワーク」は、そんな現代の抱える問題にメスを入れ、東灘区に住むさまざまな人々の助け合いのネットワークづくりに取り組んでいる団体である。設立は1995年。阪神・淡路大震災直後に立ち上げられた。

乳幼児を連れた母親から高齢者まで誰でも気軽に立ち寄れる「ふらりカフェ」やカルチャー教室の運営など、幅広い年代の地域住民が交流する機会を多数提供。最近では、高齢者が小中学生に宿題の指導をする「宿題お助け隊」など、高齢者が地域の先生になり、子育てをサポートする活動にも積極的だ。地域住民に助けられた子ども達が成長し、次世代へ恩返ししていく。そんな助け合いの循環が、地域の発展につながっていくのだろう。



3世代ならぬ、4世代交流の夏祭りも実施。高齢者が手遊びを披露し、親子と遊ぶ。

認定NPO法人 東灘地域助け合いネットワーク

TEL: 078-843-4029
E-mail: info@hnr.or.jp
URL: http://hnr.or.jp/
事務所: 神戸市

series
80

1人でも多くの子ども達に 里親の温かさを届けたい。

親の病気や貧困などを理由に親元で暮らせない子どもは年々増えている一方で、そんな子ども達を養育する里親の数が不足している。そこで、里親の支援と登録者数の増加、広報活動に取り組んでいるのが「京都市里親会」だ。

子どもを受け入れる里親としての養育力向上をめざす研修会や、交流の場である里親サロンを年2回開催。悩みなどの意見交換を通じ、里親達のネットワークをつくっている。またキャンプなど、子ども向けのレクリエーションや里子交流事業も行い、子ども達が孤立しないような場づくりにも注力している。

一方で、チラシ配布や新聞広告の掲載などを通じた地域へのアピール活動にも精力的だ。里親制度について多くの人に知って理解してもらうことで、里親希望者を増やし、社会全体からの深い支援へとつなげている。その甲斐もあって京都市内の登録者数も認知度もアップ。団体成立から60年、京都市の児童相談所や関係機関とも連携を取り合っており、より多くの子どもの幸福をサポートし続けている。



はじめまして、
で
はじまる親子。



里親サロンの様子。地域を越えて交流する全国里親大会への参加も。

京都市里親会

TEL: 075-801-2929
事務所: 京都市

series
81

歴史的建造物も 健康のために受診中。

阪神・淡路大震災の際、文化財未指定であった多くの歴史的建造物が修復されず、解体を余儀なくされた。その苦い経験から、国主導で歴史的建造物の文化財登録制度が誕生し、登録有形文化財は増加。その一方で、維持や保存活用が新たな課題となってきた。

そこで立ち上がったのが「阪神文化財建造物研究会」だ。阪神間を拠点に、文化財建造物を定期的に訪問調査し、保存活用の提案をする「ホームドクター活動」を行う、かかりつけ医のような存在だ。歴史的建造物の保全、活用を推進するヘリテージマネージャーとして登録された建築士等のメンバーが中心となり、専門的視点で問題点をいち早く発見。所有者・行政と連携した活動を継続し、今では文化庁の委託事業も請け負うまでに信頼も厚くなった。

また、西宮市と協働し、座学や現地研修を通じて歴史建築観光サポーターを育成。価値を啓蒙する活動も行っている。文化財建造物を守り、育て、伝えることで歴史と文化を“活かして”いるのだ。

NPO法人 阪神文化財建造物研究会

E-mail: info@hanbunken.net
URL: http://hanbunken.blog.fc2.com/
事務所: 西宮市



甲子園会館などの見学会を開き、地域の活性化にも貢献。

グループ従業員の ボランティア活動レポート

従業員・OBの皆さまの参加するボランティア団体に、阪急阪神ホールディングスが3万円を支援する「ゆめ・まち“ええこと”応援団」。昨年度の支援先と、参加従業員・OBの方のコメントをご紹介します。

2017年度
vol.4



**大阪赤十字
安全事業指導奉仕団**
/大阪市
中央電設
小西 修一さん

生命と健康を守ることの 大切さを伝えたい。

小中学校や企業などを対象に、救急法や水上安全法の講習を開いています。三角巾や家庭日用品などを用いて実演すると「身近なものもこう使えば救助や手当ができるんだ!」と手品を見たように驚かれ、興味を持ってもらえます。今回の支援金で2色の三角巾を購入しました。色が違うと結び方やほどき方がより受講者に伝わりやすくなり、とても有意義でした。一人でも多くの人に正しい応急手当の知識と技術を身につけてもらうこと。それが他人だけでなく、自分自身の命や健康を大切にす意識につながれば何よりですね。



AEDの使い方や着衣泳等、実践的に指導します。興味がある方は日本赤十字社のHPをご覧ください!

グループN-BUN (エヌブン)/大阪市

阪急電鉄OB 山下豊さん

音訳図書を製作して視覚障がい者の方々に届けています。



住之江シャークス /大阪市

阪神電気鉄道 福嶋亮さん



支援金で防衛ネットと整備ブラシを購入し、大変喜ばれました!

日本ボーイスカウト 堺第4団/堺市

アイテック阪急阪神 井阪宣之さん

支援金で隊旗を購入。資金の負担が軽減して助かりました。



北六甲台 フットボールクラブ/西宮市

阪急電鉄 林大介さん



地域に密着した社会貢献活動が町を元気にすると信じています。

福井サン・ボーイ スポーツ少年団/茨木市

阪急電鉄 柏木隆弘さん

購入したヘルメットなどを喜ぶ団員の姿に支援の偉大さを実感。



大東連合子ども会 /大阪市

阪神園芸 辻本誠さん



お祭りなどを運営し、地域児童の福祉増進と社会教育活動を推進!

開明スピリッツ /尼崎市

阪神電気鉄道 高木大介さん

支援金で数多くのソフトボールの大会に参加することができました。



小部少年団野球部 /神戸市

阪神コンテンツリンク 入口直樹さん



少年野球を通じて、挨拶や協調性、夢を持つ大切さを伝えています。

市民団体の活動参加のススメ

File 25 「六甲山で一緒に汗を流しませんか!」
フォレスター松寿 植樹会&樹木教室のご案内

六甲山系グリーンベルト整備事業の「森の世話人」として活動するフォレスター松寿。これまで約850本の植樹を行い、防災に役立つ憩いの森づくりをめざしてきました。今回は植樹と樹木教室を開催、緑豊かな六甲山を実感していただきます。



日時: 2018/3/3(土) 予備日3/4(日) 9:00~15:00
場所: 集合: JR甲南山手駅改札北側ロータリー
活動場所: 神戸市東灘区森北地区魚屋道登山口から徒歩約30分

参加費: 無料※1週間前までに下記までお申し込みください。

お問合せ先: フォレスター松寿

TEL: 090-5643-5208(永井) E-mail: nagai335@bcb.bai.ne.jp
URL: http://forester.la.coocan.jp/framepage1.html

File 26 子育てがんばり過ぎていませんか?
こどもとの関わり方を教えます!

こどもとの関わり方がわからない、発達で心配なことがある、誰にも相談できない...そんな悩みがあるなら、いちど参加してみませんか。子育ての悩みを解決し、楽しく前向きに子育てするために、参加体験型の学習プログラムを実践も交えて紹介します!



日時: 2018/1/31(水) 10:00~12:00
場所: UR都市機構 富田団地集会所
(高槻市牧田町7 富田団地57号棟)

参加費: 500円※お子様同伴可

お問合せ先: NPO法人 高槻子育て支援ネットワークティビー

TEL: 072-678-6287 E-mail: tepee@m4.dion.ne.jp
URL: http://www.eonet.ne.jp/~thipi-takatsuki/



▲阪急三番街の「HANKYU BRICK MUSEUM」に展示中の阪急梅田駅

◀熊本地震の復興応援イベントで制作した熊本城

Social People Interview

レゴ®認定プロビルダー
三井 淳平さん

日本人で唯一の「レゴ®認定プロビルダー」の三井淳平さん。レゴグループも認めるスキルを活かし、国際交流や教育活動をされています。

「好き」で始めた活動が
振り返れば「誰かのため」に

人の喜ぶものを つくりあげる醍醐味

どんなものでもつくれるレゴブロック。中学生でその面白さに本格的に目覚めたのは、作品を見た人が驚いたり喜んだりしてくれるやりに気づいたからです。中学、高校、大学と作品をつくり続け、2011年にレゴ®認定プロビルダーになりましたが、振り返ると、レゴブロックを使って人の喜ぶことをするのが、活動のひとつの軸になっていったように思います。

例えば、私は大学在学中に、レゴブロックでの作品制作や関連する課外活動で東京大学総長賞をいただきましたが、評価してもらえたポイントに、社会貢献活動があります。そのひとつが、国内外でのワークショップ。タイでは、子ども達と一緒にレゴブロックで動物などを制作。言葉を超えたコミュニケーションが生まれ、日本を知ってもらった機会にもなりました。また、レゴブロックを教育的な場で活用しようと、中学校で数学と絡めた講義も行いました。四角いブロックで曲線

を表現する原理などは、数学的思考を鍛えるのにも役立つものです。自分の経験に基づいたオリジナルの講義は学生達からの反応も良く、後日、レゴ®同好会をつくったという嬉しい連絡も届きました。

私がこのような活動を通して子ども達に感じてほしいのは、ものをつくる面白さと、チームワークによる達成感や充実感。レゴブロックはさきつけになればという考えです。

レゴブロックを通じて 社会にメッセージを

現在は作品づくりがそのまま仕事になっていますが、社会貢献性の高い依頼を優先して受けるようにしています。

例えば、災害支援を目的とした活動です。昨年は熊本地震からの観光復興支援のために、7万5千ピースを使って約1億4千万の熊本城を制作。完成直前のチャリティイベントでは、台座部分のブロックを寄付という形で販売。ただ寄付してもらうのではなく、購入者には応援メッセージをブ

ロックに書いていただくことにしました。こどもから大人まで大勢の方がメッセージが集まり、その想いが積み重なるようにと気持ちを込めて制作しました。皆さんの協力で完成した熊本城を見たときは、本当に嬉しかったですね。寄贈した熊本城の作品で被災地の皆さんを元気づけられればと思います。

「好き」を活かして 無理なく社会貢献

もともと好きで始めたレゴ®なので、当初は社会貢献活動を強く意識していませんでした。国際交流も教育も、いつの間にか人の役に立っているというのが正直なところ。ですが、私はそこから多くの刺激を受けています。その経験からも、社会貢献は肩ひじ張ってするのではなく、自分が好きなことやできることで社会にコミットしていくのが一番だと思います。それならば、敷居も決して高くないはずです。「好き」を大切にしつつ、できることから続けてみる。それが第一歩ではないでしょうか。



Profile 1987年、兵庫県生まれ。東京大学大学院修士課程修了。高校時代から「TVチャンピオンレゴブロック王選手権」出場。2011年に日本人初、世界で13番目のレゴ®認定プロビルダーに選出される。現在、三井ブリックスタジオ株式会社を運営。阪急三番街の「HANKYU BRICK MUSEUM」にも作品が展示されている。